

1年保健体育 (MYP 2 Physical & health education) 【保健体育：3単位】

科目のねらい

MYP保健体育の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・探究学習を通して、保健体育の概念を研究する。
- ・様々な場面に効果的に参加する。
- ・身体活動（運動）の価値を理解する。
- ・健康的な生活（ライフスタイル）を維持する。
- ・効果的に他人と協力したり、コミュニケーションをとったりする。
- ・他人と建設的・肯定的な関係を構築し、社会的責任を示す。
- ・自身の学習経験を振り返る。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. 保健体育の知識について、事実、手続き、概念の側面から記述する。
	ii. 保健体育の課題を説明し、既知及び未知の状況に設定された問題を解決するため、保健体育の知識を応用する。
	iii. 理解した内容についてコミュニケーションをとるため、保健体育の用語を効果的に応用する。
B：パフォーマンスに向けた計画	i. 健康や身体的活動の改善のための計画を策定し、説明する。
	ii. 成果に基づき、計画の有効性（効果）について説明する。
C：応用と実践	i. 幅広く技術や技能を効果的に応用する（実際に示す）ことができる。
	ii. 幅広い方策と運動概念を応用する（実際に示す）ことができる。
	iii. 効果的に実践するために情報を分析・応用し、概要を説明することができる。
D：パフォーマンスの振り返りと改善	i. 対人技能を高めるための方策を記述し、実際に示すことができる。
	ii. パフォーマンスを高めるために目標の概要を説明し、方策を応用することができる。
	iii. パフォーマンスを分析・説明し評価することができる。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Physical & health education guide」に基づいています。

関連概念（保健体育の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

適合	選択	バランス	エネルギー
環境	機能	交流・相互作用	動作
視点・観点	改良	スペース	システム

※目標と評価規準はMYP保健体育3のものを使用する。

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. Change(変化) 2. Orientation in space and time (空間と時間) 3. コミュニケーション、整理整頓スキル	A. 体づくりの運動 (ア. 体ほぐしの運動・イ. 体力を高める運動) ラジオ体操ではグループで体操の目的を理解し実践する。新体力テストは方法を理解し計測する。	評価規準B(個人)ラジオ体操の動画を分析し動作をポートにまとめる。(グループ)学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する。他のグループの成果を観察評価を行い反省する。 評価規準C(個人)実技試験としてグループごとに体操を行いVTR撮影によって行い、他者評価を行う。	1. ①知識・技能 -C ②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D 2. C-15

				評価規準D(個人)学習の振り返りをレポートにまとめる。 【B】【C】【D】	
	2	1. Communication(伝達) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. 協働スキル・振り返りスキル・批判的思考スキル	C. 陸上競技 (ア. 短距離走) ※雨天時は走り高跳び	評価規準A(個人)短距離走のルールや行い方、講師からの学びをレポートにまとめる。タイム測定とVTR撮影を実施し試技と本番の比較をする。 評価規準D(グループ)短距離走ルールや行い方を知る。互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。 【A】【D】	1. ①知識・技能 -A ③思考・判断・表現-D 2. A-3
	3	1. Communication(伝達) 2. Orientation in space and time(空間と時間) 3. コミュニケーションスキル・創造的思考スキル	E. 球技 (ア. サッカー) 実施種目: フットサル	評価基準B個人の課題を発見し、改善に向けた練習の計画を立て実践する。 評価規準Cボールコントロールを身につけ、それを活かした簡易ゲームを行う。 実技試験を行う。 【B】【C】	1. ①知識・技能 -C ②学びに向かう力-B 2. C-10
	4	1. Relationships(関係) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わりあい) 3. 協働スキル・振り返りスキル	E. 球技 (ウ. ソフトボール)	評価規準B(グループ)チームや個人の課題を発見し、改善に向けた練習計画を立てて実践する。進捗や活動を分析・評価する。 評価規準D互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。他のグループの成果についても観察評価し、レポートにまとめる。 【B】【D】	1. ②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D 2. C-11
後期 (10月~3)	5	1. Relationships(関係) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わり合い) 3. コミュニケーションスキル・振り返りスキル	F. 武道(ア. 柔道)	評価規準A(個人)柔道の行い方、礼法や他者へのマナーを身につける。 評価規準C(個人・2人組み)自己や相手の身を守る方法を知り、実践する。受け身、固め技、立ち技の実技試験を行う。 【A】【C】	1. ①知識・技能 -A, C 2. B-7
	6	1. Relationships(関係) 2. Personal and culture expression(個人的・文化的表現) 3. コミュニケーションスキル・情動スキル・創造的思考スキル	G. ダンス (ウ. 現代的なリズムのダンス) 実施種目: ヒップホップダンス	評価規準Aヒップホップの歴史やステップをレポートにまとめる。 評価規準B(グループ)学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する 【A】【B】	1. ①知識・技能 -A ②学びに向かう力-B 2. B-9
	Unit外	1. Change(変化) 2. Orientation in space and time(空間と時間) 3. 振り返りスキル	B. 器械運動 (ア. マット) ※(ウ. 平均台は時数に余裕がある場合のみ行う)	評価規準C(個人)規定の技を演じ、仲間と評価し合う。【C】	1. ①知識・技能 -C 2. B-6
通年	7	1. Communication(伝達) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. 協働スキル・振り返りスキル・情報リテラシースキル・メディアリテラシー・批判的思考スキル・創造的思考スキル・転移スキル	H. 保健・体育理論	評価規準A(個人・グループ)運動やスポーツの行い方の知識を学び理解する 評価規準A(個人・グループ)心身の機能の発達と心の健康を自分と他者のこととしてとらえ、思考し、理解を深める。 評価規準D何を学んだか、またその学びを今後の生活にどう活かすかを考え、レポートにまとめる。 【A】【D】	1. ①知識・技能 -A ③思考・判断・表現-D 2. B-8

2年保健体育（MYP 3 Physical & health education）【保健体育：3単位】

科目のねらい

MYP保健体育の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・探究学習を通して、保健体育の概念を研究する。
- ・様々な場面に効果的に参加する。
- ・身体活動（運動）の価値を理解する。
- ・健康的な生活（ライフスタイル）を維持する。
- ・効果的に他人と協力したり、コミュニケーションをとったりする。
- ・他人と建設的・肯定的な関係を構築し、社会的責任を示す。
- ・自身の学習経験を振り返る。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. 保健体育の知識について、事実、手続き、概念の側面から記述する。
	ii. 保健体育の課題を説明し、既知及び未知の状況に設定された問題を解決するため、保健体育の知識を応用する。
	iii. 理解した内容についてコミュニケーションをとるため、保健体育の用語を効果的に応用する。
B：パフォーマンスに向けた計画	i. 健康や身体的活動の改善のための計画を策定し、説明する。
	ii. 成果に基づき、計画の有効性（効果）について説明する。
C：応用と実践	i. 幅広く技術や技能を効果的に応用する（実際に示す）ことができる。
	ii. 幅広い方策と運動概念を応用する（実際に示す）ことができる。
	iii. 効果的に実践するために情報を分析・応用し、概要を説明することができる。
D：パフォーマンスの振り返りと改善	i. 対人技能を高めるための方策を記述し、実際に示すことができる。
	ii. パフォーマンスを高めるために目標の概要を説明し、方策を応用することができる。
	iii. パフォーマンスを分析・説明し評価することができる。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Physical Health and education guide」に基づいています。

関連概念（保健体育の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

適合	選択	バランス	エネルギー
環境	機能	交流・相互作用	動作
視点・観点	改良	スペース	システム

※目標と評価規準はMYP保健体育3のものを使用する。

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. Change(変化) 2. Orientation in space and time (空間と時間) 3. コミュニケーション、整理整頓スキル	A. 体づくりの運動 (ア. 体ほぐしの運動・イ. 体力を高める運動) ラジオ体操ではグループで体操の目的を理解し実践する。新体力テストは方法を理解し計測する。	評価規準A(個人)ラジオ体操の動画を分析し動作をポートにまとめる。 評価規準B(グループ)学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する。他のグループの成果を観察評価を行い反省する。 評価規準C(個人)実技試験としてグループごとに体操を行いVTR撮影を行い、他者評価を行う。【A】【B】【C】【D】	1. ①知識・技能 -A, C ②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D 2. C-15

	2	1. Communication(伝達) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. 振り返りスキル・批判的思考スキル	C. 陸上競技 (ア. 持久走・リレー) ※雨天時は走り高跳び	評価規準 C (個人) 自己目標を設定し、記録測定と VTR 撮影による実技を行う。 評価規準 D 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組みを振り返る。 【C】 【D】	1. ①知識・技能 -C ②思考・判断・表現-D 2. A-4
	3	1. Communication (伝達) 2. Orientation in space and time (空間と時間) 3. コミュニケーションスキル・協働スキル・創造的思考スキル	E. 球技 (ア. フラッグフットボール)	評価規準 B フラッグフットボールの作戦を学んだうえで、それをチームで理解して実践していくための練習計画を立てて振り返る。 評価規準 D 自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。 【B】 【D】	1. ①学びに向かう力-B ②思考・判断・表現-D 2. A-5
	4	1. Relationships(関係) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関係) 3. コミュニケーションスキル・感情スキル・振り返りスキル・創造的思考スキル	G. ダンス (ウ. チアダンス)	評価規準 B (グループ) 学習計画を立て、進度や活動を分析・評価する。他のグループの成果に対して観察評価を行いレポートを提出する。 評価規準 C (グループ) テーマにふさわしい作品をつくり、まとめ、表現すること。【B】 【C】	1. ①知識・技能 -C ②学びに向かう力-B 2. A-6
後期 (10月～3月)	5	1. Relationships(関係) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わり合い) 3. コミュニケーションスキル・振り返りスキル	F. 武道 (ア. 柔道)	評価規準 A (個人) 柔道の行い方、礼法や他者へのマナーを身につける。 評価規準 D 安全に行うための方法や、礼法、技能の高め方を知り、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を振り返る。【A】 【D】	1. ①知識・技能 -A ②思考・判断・表現-D 2. B-7
	6	1. Relationships(関係) 2. Orientation in space and time (空間と時間) 3. コミュニケーションスキル・協働スキル・振り返りスキル	E. 球技 (ア. バスケットボール)	評価規準 B バスケットボールの作戦を学んだうえで、それをチームで理解して実践していくための練習計画を立てて振り返る。 評価規準 D 自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。 【D】	1. ①学びに向かう力-B ②思考・判断・表現-D 2. C-12
	Unit 外	1. Relationships(関係) 2. Orientation in space and time (空間と時間) 3. コミュニケーションスキル	E. 球技 (ウ. ソフトボール、) B. 器械運動(エ. 跳び箱)	評価規準 C 基本的な技能を高めて試合でチームとして能力を発揮していく。 (個人) 規定の技を演じ、仲間と評価し合う。【C】	1. ①知識・技能 -C 2. B-8
通年	7	1. Communication(伝達) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. 協働スキル・振り返りスキル・情報リテラシースキル・メディアリテラシー・批判的思考スキル・創造的思考スキル・転移スキル	H. 保健・体育理論	評価規準 A (個人・グループ) 運動やスポーツの行い方の知識を学び理解する 評価規準 A (個人・グループ) 傷害の防止について、その解決を目指した活動を通して、思考し理解を深める。また、健康と環境について課題を発見し、その解決を目指して思考し判断するとともに、それらを表現する【A】	1. ①知識・技能 -A 2. C-12

3年保健体育（MYP 4 Physical & health education）【保健体育：3単位】

科目のねらい

MYP保健体育の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・探究学習を通して、保健体育の概念を研究する。
- ・様々な場面に効果的に参加する。
- ・身体活動（運動）の価値を理解する。
- ・健康的な生活（ライフスタイル）を維持する。
- ・効果的に他人と協力したり、コミュニケーションをとったりする。
- ・他人と建設的・肯定的な関係を構築し、社会的責任を示す。
- ・自身の学習経験を振り返る。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. 保健体育の知識について、事実、手続き、概念の側面から記述する。
	ii. 保健体育の課題を説明し、既知及び未知の状況に設定された問題を解決するため、保健体育の知識を応用する。
	iii. 理解した内容についてコミュニケーションをとるため、保健体育の用語を効果的に応用する。
B：パフォーマンスに向けた計画	i. 健康や身体的活動の改善のための計画を策定し、説明する。
	ii. 成果に基づき、計画の有効性（効果）について説明する。
C：応用と実践	i. 幅広く技術や技能を効果的に応用する（実際に示す）ことができる。
	ii. 幅広い方策と運動概念を応用する（実際に示す）ことができる。
	iii. 効果的に実践するために情報を分析・応用し、概要を説明することができる。
D：パフォーマンスの振り返りと改善	i. 対人技能を高めるための方策を記述し、実際に示すことができる。
	ii. パフォーマンスを高めるために目標の概要を説明し、方策を応用することができる。
	iii. パフォーマンスを分析・説明し評価することができる。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Physical Health and education guide」に基づいています。

関連概念（保健体育の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

適合	選択	バランス	エネルギー
環境	機能	交流・相互作用	動作
視点・観点	改良	スペース	システム

※目標と評価規準はMYP保健体育3のものを使用する。

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. Change(変化) 2. Orientation in space and time (空間と時間) 3. コミュニケーション、整理整頓スキル	A. 体づくりの運動 (ア. 体ほぐしの運動・イ. 体力を高める運動) グループで体ほぐしの運動の目的を理解し実践する。新体力テストは方法を理解し計測する。	評価規準A(個人)主運動の目的から体ほぐしの運動を考え、動作をポートにまとめる。 評価規準B(グループ)学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する。 評価規準D(個人)パフォーマンスを高めるためのポイントをつかみ、それに照らし合わせて自分のパフォーマンスを評価することができる。【A】【B】【D】	1. ①知識・技能 -A, C ②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D 2. C-15

	2	1. Perspective(ものの見方) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. コミュニケーションスキル・協働スキル	C. 陸上競技 (ア.ハードル走 イ.走り高跳び) ※雨天時は走り高跳び H. 体育理論にかかわること	評価規準 B(個人) 目標の設定と自己に適した練習を計画する。 評価規準 C(グループ) スムーズなハードリングを身に付け、よりよい記録を生み出す。【B】【C】	1. ①知識・技能 -A, C ②学びに向かう力-B 2. A-5
	3	1. Change(変化) 2. Orientation in space and time(空間と時間) 3. コミュニケーションスキル・整理整頓スキル・振り返りスキル	E. 球技 (イ.テニス) H. 体育理論にかかわること	評価規準 C ラケットやボールのコントロールを身につけ、それを活かしたラリーができる。 評価規準 D パフォーマンスを高めるためのポイントをつかみ、それに照らし合わせて自分のパフォーマンスを評価することができる。【C】【D】	1. ①知識・技能 -A ②思考・判断・表現-D 2. A-5
後期 (10月～3月)	4	1. Communication(伝達) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わり合い) 3. 振り返りスキル・批判的思考スキル	E. 球技 (ア.ハンドボール) H. 体育理論にかかわること	評価規準 A(個人) ハンドボールの競技の仕方や技能の方法や行い方を知る。 評価規準 D(個人) 互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。【A】【D】	1. ①知識・技能 -A, C ②思考・判断・表現-D 2. C-12
	5	1. Relationships(関係) 2. Personal and culture expression (個人的・文化的表現) 3. 整理整頓スキル・協働スキル・創造的思考スキル	G. ダンス (ア.創作ダンス) H. 体育理論にかかわること	評価規準 B(グループ) 学習計画を立て、進度や活動を分析・評価する。他のグループの成果を観察評価し、レポートを提出する。 評価規準 C(グループ) テーマにふさわしい作品をつくり、まとめ、表現すること。【B】【C】	1. ①知識・技能 -A, C ②学びに向かう力-B 2. C-15
	U n i t 外	1. Relationships(関係) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わり合い) 3. コミュニケーションスキル・協働スキル・段取りスキル・振り返りスキル・創造的思考スキル	F. 武道(ア.柔道) H. 体育理論にかかわること	評価基準 A(個人) 柔道のルールや基本動作に関する項目を整理する。解説書を作る。 評価規準 C(個人・2人組み) 自己や相手の身を守る方法を知り、実践する。立ち技の実技試験を行う。【A】【C】	1. ①知識・技能 -A, C 2. B-7
通年	6	1. Communication(伝達) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. 情報リテラシースキル・メディアリテラシー・批判的思考スキル 創造的思考スキル・転移スキル	H. 保健・体育理論	評価規準 A 人間の健康が主体と環境との関わりであることを学び、その要因に対する適切な対策を知りレポートにまとめる。 評価規準 A 現代生活におけるスポーツの文化的意義を社会的な視点でレポートにまとめる。【A】	1. ①知識・技能 -A 2. A-2 C-11 C-18

4年次保健体育 (MYP 5 Physical & health education) 【体育：2単位】 【保健：1単位】

科目のねらい

MYP保健体育の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・探究学習を通して、保健体育の概念を研究する。
- ・身体活動（運動）の価値を理解する。
- ・健康的な生活（ライフスタイル）を維持する。
- ・効果的に他人と協力したり、コミュニケーションをとったりする。
- ・他人と建設的・肯定的な関係を構築し、社会的責任を示す。
- ・自身の学習経験を振り返る。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：知識と理解	保健体育の知識について、事実、手続き、概念の側面から説明する。
	保健体育の課題を分析し、既知及び未知の状況に設定された問題を解決するため、保健体育の知識を応用する。
	理解した内容についてコミュニケーションをとるため、保健体育の用語を効果的に応用する。
B：パフォーマンスと計画	健康や身体的活動の改善のための計画を策定し、説明、及び正当性を示す。
	成果に基づき、計画の有効性（効果）について分析し評価する。
	幅広く技術や技能を効果的に応用する（実際に示す）ことができる。
C：技能	幅広い方策と運動概念を応用する（実際に示す）ことができる。
	効果的に実践するために情報を分析・応用することができる。
	対人技能を高めるための方策を説明し、実際に示すことができる。
D：パフォーマンスの振り返りと改善	パフォーマンスを高めるために目標を説明し、方策を応用することができる。
	パフォーマンスを分析し、評価することができる。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Physical & health education guide」に基づいています。

関連概念（保健体育の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

適合	バランス	選択	エネルギー
環境	機能	交流・相互作用	動作
視点・観点	改良	スペース	システム

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
前期 (4月～9月)	1	1. Change (変化) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わり合い) 3. コミュニケーションスキル・協働スキル・創造的思考スキル	A 体づくり運動 (ア) 体ほぐしの運動 (イ) 体力を高める運動 アスレチックコースづくり H. 体育理論にかかわること	評価規準 B：体力要素の理解をもとに、ねらいに応じたアスレチックの作成計画を立てる。 評価規準 D：作成したアスレチックがねらいに応じた物であったか振り返る。 【B】 【D】	②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-D

	2	1. Relationships(関係) 2. Orientation in space and time(空間と時間) 3. コミュニケーションスキル・協働スキル・振り返りスキル	E. 球技 (ア. バスケットボール)	評価規準A: バスケットボールの戦術の型、攻めの役割について調べて、自分達の戦術を理解する基礎とする。 評価規準D: 振り返りの中で、自分たちの戦術に対応してきた相手の姿を分析し、その上をいくために、どのような新たな戦術を選ぶかを検討する。 【A】 【D】	①知識・技能-A ③主体的に学習に取り組む態度-D
	3	1. Relationships(関係) 2. orientation in space and time(空間と時間) 3. 振り返りスキル	E. 球技 (イ. テニスⅡ)	評価基準C: ストロークとボレー、サービスの実技テストを行う。 評価規準D: 互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。 【C】 【D】	①知識・技能-C ③主体的に学習に取り組む態度-D
後期 (10月～3月)	4	1. Communication(伝達) 2. Orientation in space and time(空間と時間) 3. コミュニケーションスキル・情動スキル・振り返りスキル	集団演技 B 器械運動 (ア) マット運動 G ダンス (ウ) 現代的なリズムのダンス	評価規準B: チームや個人の力を認識し、集団としての構成を計画的にプログラムする。 評価規準Cグループにおける技の構成と個人の技能を評価する。 【B】 【C】	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B
	5	1. Change(変化) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わり合い) 3. 協働スキル・振り返りスキル	E 球技 (イ) バレーボールⅢ	評価規準B: 個人技能のレベルアップとチームとしてのレベルアップに必要な計画を立てる。 評価規準C: 直上トス(オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの交互)の連続回数、および、サーブレシーブのセッターへの送球の正確性を評価する。 【B】 【C】	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B
	6	1. Communication(伝達) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. 批判的思考スキル	H. 体育理論 (1) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴	現代生活においてスポーツの文化的意義が高まってきたことを理解する。 スポーツを通じた人のつながりや国際的な大会が及ぼす文化的な意義や効果を交流する。	
	ユニット外	1. Relationships(関係) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わり合い) 3. 情動スキル	E 球技 (バドミントン)		
通年	6	1. Communication(伝達) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. 情報リテラシースキル・メディアリテラシー・批判的思考スキル・転移スキル	H. 保健 (1) 現代社会と健康 (2) 安全な社会生活 (4) 健康を支える環境づくり	評価規準A 人間の健康が主体と環境との関わりであることを学び、その要因に対する適切な対策を知りレポートにまとめる。 評価規準B 自他や社会の課題を発見し、その解決に向けた取り組みを計画する。 評価規準D 得た知識をどのように実生活に応用するかレポートに記述する。【A】 【B】 【D】	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-D